（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0195300207		
法人名	株式会社　ハンループ		
事業所名	グループホーム　あとれ（2階ユニット）		
所在地	北海道網走市呼人519番地17		
自己評価作成日	令和2年5月10日	評価結果市町村受理日	令和2年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームは静かな郊外にあり、のどかに生活が送れます。
積極的にお手伝いをして下さる方が居たり、自立されている入居者さんが増えています。
郊外と言うことも有り、今年はコロナウイルスのために外出もままならない状況で、施設内で楽しめるように、レクリエーションや季節感のある壁紙、行事食に力を入れています。
入居者様のストレスに繋がらないよう、職員も話し合い色々なアイディアを出し、日々生活をしています。（散歩や畑仕事等）

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195300207-00&Ser

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	有限会社　NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年9月29日

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現在の理念も職員間で共有しているが、それを踏まえて簡単な理念2として職員に考案、見やすい場所に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所との交流は、町内会の催し等も年々減ってきている為、日常的に交流は難しい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の参加は、未実施なために今後、地域との関わりを見直しする。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を利用して町内会長さんや、民生委員の方にも意見を頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から市役所へは行き来したり、分からないこと何かあればメールや電話連絡を密に行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を立ち上げている。 ミーティング時に確認や委員にての集まりも開催し、運営推進委員会時に報告している。 身体拘束はしないケアにとり組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	月に1回のミーティング時に職員に口頭や書類などで伝え、声がけや言葉使いなど気を付け、互いに防止に努めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人が付いている入居者さんは居ませんが、今年度、市民後見制度の募集があれば管理者は参加する予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず重要事項説明を行いその場で不安、疑問等に対して説明し納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々サービス提供の中で入居者本人の不満、不安、苦情等があれば、時間を置かずに解決するように取り組んでいます。面会時には管理者、職員が挨拶に必ず行くようにしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を行う時や個別に意見があるときや、管理者から投げかけたりしながら意見を聞く機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長、管理者は職員個々の努力などの評価を行い、実績、有資格者などは昇格を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会を会社全体で行う予定 各階ミーティング時には必ず職員１人１人がケアに対する意見交換をするようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長が中心となり定期的に行われている市内グループホーム部会へ参加している。意見交換した内容は管理者に伝え、職員まで伝えるようにしている。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供の病院や担当の介護支援専門員が間に入り本人の面会時等、家族、担当者の許可がある際には積極的に意見を聴くよう努力している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を含めた、家族の問題を主に出来る限り面会時に何か困ったこと、不安な事が無いか確認したり、家族の立場に立って思いを受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問やホームに来て頂く機会を設け本人や御家族の不安を傾聴し、本人本位の支援で、御家族や介護者側との関わり方を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を大事にしながら、その際にも昔の方の知恵を教わり、協力して出来ることを探し一緒にとり組む反面、時折、介護者優先になってしまう場面が見られる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族が来棟時は現状報告させて頂いたり、忙しくて来棟が難しい家族にはお手紙・写真を使い、状況報告をさせて頂いている。ブログの更新もしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる方がいつでも来棟出来るようにしています。本人の大切にしてきた物や人との関わりを途切れないように電話など使い対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特徴などを把握し座席を考え楽しく会話できる場所や、穏やかに過ごせる場所を提供できるように日々考慮しながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人退居後も他事業所に移られた際、出来る限り関係性の継続を図るようにしている。又退居後の再入居の相談もその都度対応している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当者がフロア一会議の時に状態の把握やケアについて報告や相談をして本人の希望等の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者情報として生活歴、既往歴等本人の生活スタイルの把握している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の行動、訴えを記録に落とし、状態の把握に努め、職員間では情報共有を毎日行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたり受け持ち職員と介護支援専門員を中心に助言等を組み入れ自立した生活を自然に送られるよう本人にも確認し、完成した計画は御家族の確認を頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った生活記録を行い計画実施について本人の様子を含めて記載しており、気付き、発見がある場合は都度会議を行い計画に盛り込んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて柔軟な支援を行っている。医療機関の通院、外出支援などの柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入しているが、なかなか地域住民と施設との関わりが無いのが現状である。町内会長や民生委員とは何かあれば連絡、相談出来るようになっています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を優先させてもらっている。掛かり付け医の把握と連絡などは密に行い、月1回、訪問看護による医療連携体制を取り、桂ヶ丘クリニックの訪問診療も受けている。（2Fは2名）		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を訪問看護事業所に依頼、定期的に入居者の健康管理や医療的な支援、緊急時の対応行っている。又介護計画の助言も頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、入院先担当の医師又は看護師より情報を頂き早期退院出来るよう家族と話し合い、医療連携体制より看護師の意見を併せ的確にご家族に伝達させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体機能低下に伴い著しく生活に影響が出てきた場合都度家族へ報告しています。重要事項説明書に記載してあるが、終末期ケアは行えていない、今後は知識を習得する必要がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内にて緊急時マニュアルに沿い対応し、医療機関への迅速な連携を実施している。ミーティングでの話し合いは都度行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。今後の訓練は運営推進委員会と併せて行う予定、夜勤者の役割を明確にするために夜勤者にも訓練に参加していもらっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング時に尊厳とは何かを話し合うようにしているが、日常的な声がけが馴れ馴れしくなる場面も見られる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の自己決定を尊重し何気ない会話の中でも本人の表情を見逃さず入居者、職員が共に自然に笑顔になるよう声の大きさ、目線等に配慮して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度の重い方や体調の悪い方中心になりがちであるが、御本人に合わせたペースで支援を行うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性入居者は基本的に髭剃り、調髪、女性入居者は服装に気を配り希望時や外出時は、清潔感のある身だしなみを心がけている。本人の化粧水やブラシなど手の届く場所に置いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいメニューを取り入れたり、季節毎の行事食や、外出して食事を楽しむ事が出来るように計画し実行している。食器洗い、拭きを日課としている方もいます。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は1日決まっている方が2名います。スタッフ全員が把握しています。その他の方はその都度、声かけなどをして、状態状況を判断している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面台にて口腔ケアを行っている。又週/1回義歯洗浄剤使用し、義歯洗浄、ブラシ、コップ等は消毒液にて行い保清に努めている。訪問歯科も利用、指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り本人の安楽で自立した排泄を目指し、入居者個別に排泄誘導行い対応しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹便秘状態の長い場合は医療機関に下剤調整などの相談など行っている。レクリエーションや乳製品で排便を促せるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理に勧めることなく馴染みの職員が都度対応、入居者に自然に入浴して頂ける対応をしている。入浴時間は希望に合わせて午前午後入浴が出来るようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には就寝時間を設けているが、本人の希望や、安心して入眠出来るよう室内環境整備、眠剤の使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず職員同士声を出し合い誤薬防止に努めている。新しい薬の処方時は必ず申し送りに記入し、全職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から本人の意欲や役割に繋がる事を積極的に行えるようにスタッフ間で話し合い、取り組みを実施し笑顔ある生活に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を優先し出来る限り外出の機会を設けている。又自発的外出希望を上手く伝えられない方や外出頻度の少ない方は定期受診等の帰りに積極的にお誘いし外食、買い物等を促している。施設周辺の散歩は良く行く。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の必要な物は立替をして、請求書と一緒に請求させて頂いている。本人が使いたいときは都度、家族に報告させて頂くことにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にホームでの入居者の様子を来棟時にスタッフがお話しさせて頂き、何か必要な物がある場合などは、手紙や電話をかけさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごと壁などに季節感のあるものを入居者の方と一緒に作成、掲示したり外出時等入居者が摘んだ花などを室内に飾り楽しまれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う仲間同士話が出来る席の配置にしたり、1人が好きな方は自分のスペースを確保できるように都度対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の自宅で実際に使用していたものを持参して頂いており使い慣れた物、見慣れたものを利用し生活されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、ﾄｲﾚ内、脱衣所、浴室等安全で自立を目的とした手すりを設け状況に応じて見守りを行い、出来る限り自分の力で行って頂くよう対応している。トイレ、居室等、混乱しやすいところには目印を作り、職員の声かけと併せて対応している。居室の前に名前をつけさせて頂いている。		